

北の縄文文化回廊
づくりに向けた活動



通 信

第 8 号



目 次 はじめに 平成 17 年度活動内容・・・2 学習・研修(1)・・・3 イベント・・・4～6
参加・協力(1)・・・6・7 学習・研修(2)・・・7 参加・協力(2)・・・8

はじめに

平成 17 年度はクラブにとって活動の柱となる縄文土器づくり大会において、新しい試みを行った一年でした。土器づくりと併設して行った縄文服の記念撮影、縄文クッキーの提供、縄文土器（写真パネル）の展示、クラブの活動紹介として、アンギン編みで作ったコースターの展示、また、今回は縄文笛毅さん制作の縄文笛の展示コーナーを設け、縄文笛の製作に挑戦するなど参加者の方々がより楽しめるイベントになるように工夫しました。また、新しい活動として勾玉づくりの講座を開設するなど、内容をより充実させるよう取り組みました。

以下、17 年度の活動内容の報告になります。

平成 17 年度 活動内容

月日	活動内容	参加・協力人数	場所
6 月 18 日	第 7 回「北の縄文 CLUB」総会	25 名	函館市南茅部公民館第 2 研修室
6 月 25 日	キャンプ&シーニックラリー（アンギン編み）	7 名	埋蔵文化財大船遺跡展示館
7 月 23 日	骨角器づくり	18 名	函館市南茅部公民館第 2 研修室
7 月 24 日	釣り	15 名	白尻漁港
8 月 26 日	縄文土器づくり研修会	20 名	函館市南茅部公民館第 2 研修室
9 月 4 日	縄文土器づくり大会	100 名	函館市南茅部公民館
10 月 2 日	野焼き	23 名	白尻小学校遺跡
10 月 15 日	どうなん「学び」サポートセンター シーニックバイウェイ関連事業	7 名	函館市南茅部文化公園
10 月 22 日	アンギン編み講習	16 名	函館市南茅部公民館第 2 研修室
11 月 4 日	縄文シティサミット	3 名	青森市
1 月 28 日	勾玉づくり	15 名	函館市南茅部公民館第 2 研修室

シーニックラリー in 大船

6 月 25 日、シーニックバイウェイ北海道一函館・大沼・噴火湾ルートへの主催で、「キャンプ&ラリー」が実施されました。大船遺跡ではチェックポイントの 1 か所として、クイズやゲーム、アンギン編み体験が行われました。天気はあいにく雨模様でしたが、約 40 名の参加者が 2 グループに分かれ次々と訪れました。

前半のグループは、大船遺跡や展示館を見学した後、遺跡に関するクイズと釣りゲームをして次のチェックポイントへ。後半のグループは約 40 分間アンギン編みを体験し、コースター・サイズの作品を作り上げてからゴール地点へと向かいました。

何か所も移動しながらという珍しいスタイルのイベントで、参加者も受け入れた私たちも、わくわくしながら楽しんだ 1 日でした。



ラリーを忘れて熱中

学習・研修(1)

骨角器づくり

私が釣り針づくりを体験するのは三度目だと思います。今回はどのように作ったら魚が食いつくか考えながら砥石を左手に、鹿の角のプレートを右手に持ち、ひたすら削っていきます。針先が尖っていくうちにかえしを付けたり、削りすぎて小さくなってチカ針用になったりするなど、大物を釣るために作ったはずが小さくなってしまいました。クラブのホームページに寄せられた情報によると、鹿の角のプレートを削る前に水に浸けておくという方法で、柔らかくなり削りやすくなるそうです。実際にその方法で削ってみたら早く削ることが出来ました。きっと縄文の人たちは、私たちよりももっと効率の良い方法で作っていたのかも知れません。削るのに夢中になって自分の爪まで削ってしまいました。エヘヘ……。



釣れるといいね

釣り体験

7月24日、釣り針づくりの翌朝6時に白尻漁港ドーム下に、15名の太公望の面々が集合しました。我こそはと自信作の釣り針を付けた竿を投げ入れます。どうか釣れますように…。

今日の餌は、サンマとイカです。海面に目を凝らしてみると、チカの群れが回遊しているのが目に映りますが、なかなか喰いついてくれません。

沖を背に顔を上げると、目の前に縄文人が生活していた緑豊かな台地が広がります。縄文の人たちが、フキ・キノコなどの山菜やクリ・ヤマブドウ・コクワなどの木の実を必要な分だけ採り、助け合いながら争うことなく仲良く暮らしていたのではないかと想像してしまいます。

さて、この日の釣りの成果は残念ながらカニ一匹でしたが、みなさんととても満足していました。釣りの後は、ドームの上で朝食タイムです。持ち寄りの自慢のご馳走をいただきながら、本日の成果ゼロの反省を語り合いました。次回は釣りをする時間帯や餌の種類、釣り場所の選定などを考えてもう一度チャレンジすることを誓い合いました。



もう少しで出来上がり



釣れるかな？



今年も土器づくりに挑戦



土器に文様をつけます



縄文服が勢揃い



ぼくたち似合う？

イベント

縄文土器づくり大会

縄文土器づくり大会は、9月4日に南茅部公民館で開催されました。今年は約100名が土器づくりに参加しました。今年の土器づくりは、縄文時代後期の土器をテーマに行われ、手順や説明は、パワーポイントで行われ、しばし暗闇の中に映し出された画像に見入っていました。

挑戦者の中には、日本の発掘調査を学びに来ていたドイツの留学生、モニカ・ネイペルトさんの姿もありました。モニカさんは、初めての土器づくりでしたが、これがなかなかの出来映えなのには周囲を驚かせました。土器の出来映えに満足する姿は、国籍を問わず皆良い笑顔です。

出来上がった作品は、年々レベルアップした作品が多くなってきています。大勢の縄文土器づくり自慢の力作を、自分だけで楽しむのはもったいない気がします。次回は是非、焼き上がった土器の展示会を開催し、もっと多くの人たちに見て頂きたいと考えています。

縄文服記念撮影

今回は、男の人用の縄文服を作りましたが、今年度は女の人用と小学生用、それと小さい子供用の物を作りました。まず、最初は型紙を作り、布地を裁断しミシンをかけます。模様は紐を接着剤で貼り付けるのと、マジックで模様を描くのと2種類にしました。

制作は、事務局の皆で分担しました。土器づくり大会で記念撮影に使ったり、他のイベントに使う為です。配色を考えたり、模様を考えたり結構楽しい作業でした。

土器づくり大会当日には、土器づくりの合間や作り終わった後に、家族、友人などそれぞれに記念撮影されていました。撮影に使用した背景の絵画は、クラブの前会長に描いて頂いたものです。

どの写真も皆さん、とても良い顔で縄文人になったようで、とても素敵な一枚ができあがっていました。また、小さなお子さんが縄文服を着た姿は、とてもかわいらしく、素敵な縄文人の親子のような感じがとても良いですね！



下焼きの始まり



炎の中の土器



無事に焼き上がりました

野焼き

10月2日、発掘調査が終了した遺跡の中で野焼きが行われました。この日は、小学生を含む30名が参加しました。

野焼きの最初の工程は、参加したみんなで薪を野焼きするレーンまで運びます。次に、乾燥した土器をレーンの周りに並べていきます。ここで始めて火入れが行われ、下焼きに入ります。下焼きは、土の水分と土器の水分をさらに飛ばすために時間をかけて念入りに行われます。当日は花曇りで、野焼きにはちょうど良い天気でしたが、時折海の方から風が吹いてきて、火に追われることもありました。火の熱さと煙で涙が出て目が腫れてくるし、顔が赤くなってくるなど、炎との戦いです。それでも、皆黙々と薪を入れ土器を回しながら、徐々に本焼きへと進んでいきます。

昼食は、野焼きの合間を縫ってそれぞれお弁当を広げ、自分の土器を見つめながら焼き上がりを楽しみに交わすおしゃべりも弾みます。自分の作った土器を自分で焼き上げるということは、最高に充実感があります。ですから、炎や煙にまみれながら一生懸命薪を入れていく作業も、味わい深いものがあります。

本焼きは終盤に入り、少しずつ灰の中から縄文土器が顔を出し始めました。どの作品も割れることなく、綺麗に焼き上げることが出来ました。記念撮影では、自慢の縄文土器を前に満足そうな笑顔で、ヤッター!!



私達の作品で～す

縄文クッキーづくり

縄文の人々の食料として最も重要だったと思われる「木の実」があります。その中のひとつドングリの粉でクッキーを作ってみました。

まず、材料のハチミツ・油・卵と細かく刻んだクルミや干しぶどうをドングリの粉・そば粉・小麦粉と混ぜて生地をつくります。その後、涼しいところで少しの間ねかせておきます。

次に形をつくります。ちぎって丸め、大きさは直径4～5cm、厚さは7～8mmの木の葉型や渦巻きの文様をつけていきます。形が出来上がったら、オーブンでこんがりキツネ色に焼いて出来上がりです。

材料 10個分

ドングリ粉	30g	小麦粉	30g
そば粉	40g	卵	鶏の卵2個
ハチミツ	大さじ2	油	大さじ1



材料を混ぜ合わせた状態



ドングリクッキーの出来上がり

参加・協力

縄文の道フォーラムに参加して

9月24日に、NPO法人函館市埋蔵文化財事業団主催のフォーラムが南茅部公民館で行われ、道内外から200名が参加しました。内容は、南茅部地域に数多く遺された優れた縄文文化を地域の財産として未来に語り継ぎ、地域の魅力づくりに活用していこうというものです。南茅部地域の縄文文化に魅せられた、文化庁の土肥孝氏、俳優で日本考古学協会会員の荻谷俊介氏、噴火湾文化研究所所長の太島直行氏による熱い語らいは、私達訪れた参加者を釘付けにしました。



熱い語らいでした



とても綺麗でした

函館クリスマスファンタジーでちょっと『学ぶ』ツアー

平成17年12月18日、どうなん「学び」サポートセンターが実施するバスツアーに参加しました。クリスマスツリーを見て湯の川温泉に浸かりに行ってきました。

行きのバスの中では、会長の奥平先生による函館クリスマスファンタジーの始まりのきっかけやハリファックス市から毎年もみの木をただで貰っている事、奥平先生がハリファックス市に1年間研修で住んでいた時の話や函館の名所案内などがありました。この日は吹雪で、とても寒かったですが、ツリーはすごくきれいでした。点灯式が感動的で良かったです。観光客がたくさんいてイベントもあり良かったです。

どうなん「学び」サポートセンターと交流(シーニックバイウェイ関連事業)

10月15日、事務局5人が土器づくり前の昼食時の交流に協力しました。ちゃんちゃん焼きの下準備から始まり、鮭の下ごしらえは、活きがよいのでさばくのは大変でした。その後、野菜を切ったり、味噌ダレをつくったりして下準備が終わると今度は参加者の皆さんが来る時間に合わせ炭をおこします。次に鉄板で鮭を焼き、野菜をいれ味噌ダレをかけて蒸し焼きにして完成です。参加者の皆さんは美味しい美味しいと言ってくれました。その言葉がとてもあたたかく嬉しく思いました。



昼食の様子

学習・体験(2)



楽しかったで～す

アングイン編み

アングイン編みは、現在でも残っている編み物の技法の一つです。講座では、この技法でコースターを編むことにしました。縦糸と横糸の配色を考えながら編んでいきますが、気を抜くと縦糸が曲がったり緩くなったり、縦糸を巻き付けたコモツチが絡み合ったり、慣れないと悪戦苦闘します。ですから、気が抜けなくつい夢中になってしまいます。なかには、失敗してやり直す人もいましたが、最後まで編むことが出来ました。参加した人たちの作品は、個性があり形も様々です。完成の喜びを聞くと、私達事務局も嬉しくなります。

勾玉づくり

1月28日、今年度最後の講座が行われました。参加者は15名でした。

縄文時代の遺跡から出土する勾玉には、いろいろな形がありますが、現在私達が目にする勾玉の形は、赤ちゃんがお母さんのお腹の中にいる時の形ではないかと言われています。

今回は、滑石という柔らかく削りやすい石を使いました。最初は、勾玉の形を滑石に書いて粗めの紙ヤスリで角を削り落とし形を作っていきます。形が出来たら、目の細かい耐水性の紙ヤスリで水を付けながら丁寧に磨いて、穴を開けて出来上がりです。1時間30分くらいであつという間に、綺麗な形に仕上がりました。仕上がった勾玉の形は、参加者それぞれに個性があり、とても良い感じに出来上がりました。



無心に削ります

縄文シティサミット in あおもり 「縄文都市の魅力づくりを考える」

平成 17 年 11 月 4 日、青森市のホテルで行われました。私が出席した初めて大きな大会で、北の縄文クラブの活動報告の発表を体験させて頂きました。初めての発表なので練習は、原稿を何度も繰り返し読みました。大きな声を出して読む事も初めてなので、恥ずかしい気持ちもあり、なかなかうまくいきませんでした。そのうち、何回も練習するうちに「何とかなるさあ」と思えるようになりました。

当日は伊達市長、函館市教育長、青森市長をはじめ、16ヶ所の代表の方々がステージに並び各市や町の遺跡アピール、活用法などが述べられました。青森三内丸山応援隊の会長、福井DOKI DOKI会の会長、北の縄文クラブの順で活動報告発表という事で打ち合わせしていたのですが、1番目に名前を呼ばれたために驚いてすぐには返事が出来ませんでした。

発表は、200名以上の参加者を前に緊張で棒読みになってしまいましたが、自分が思っていた程には緊張が少なかったかな！ 今回のサミットには、心細い私を応援しようと、事務局2人も駆けつけてくれました。終了後、三内丸山応援隊のみなさんと交流を深めることも出来ました。次の日は全国各地の活動団体の交流があり、とても良い体験が出来たと思えました。

情報コーナー

お知らせ

○ 函館市大船遺跡埋蔵文化財展示館オープン

開館期間：4月1日～11月12日 開館時間：9：00～17時まで 入館無料

○ 臼尻C遺跡の発掘調査はじまる

NPO法人 函館市埋蔵文化財事業団が実施する臼尻C遺跡の発掘調査が、5月8日から始まりました。遺跡は、昨年の試掘調査の結果から縄文時代後期と早期の時期であることが分かっています。今年も、何が出土するのか楽しみです。是非発掘調査の様子を見学してはいかがでしょうか。

○ 「縄文シティサミット・縄文市民サミット」函館市で開催

このサミットは、全国16都市の知事や民間で活動している長が集まり、縄文の遺跡や遺物を活用し地域の活性化を測るために開催されます。

開催日：縄文シティサミット 10月5日（木） エクスカーション 10月6日（金）

縄文市民サミット 10月7日（土）

* 詳細については、後日ご案内致します。

2005年3月31日	第8号発行
発行	北の縄文 CLUB
連絡先	北海道函館市臼尻町 603-1
	特定非営利活動法人
	函館市埋蔵文化財事業団内
TEL	01372-2-5510
FAX	01372-2-5606